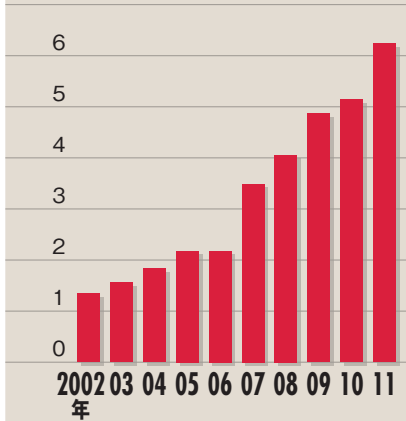


集団抗議事件増え高まる社会不安

社会安定維持費用の推移

(千億円)
7



*国内秩序維持予算:2005年までは公検法司と武装警察関連支出の合計、06年以降は公共安全関連支出ベース
*08年までは実行ベース、09年は予算ベース、10年と11年は推定値
出所:2005年までは「中国統計年鑑」、06~09年は各年財政予算案

2011年に発生した大規模集団抗議事件のトップ10

時期	場所	主体	原因	手段
4月	上海	トラックドライバー	税金、エネルギー価格の上昇による収入減	ストライキ
5月	内モンゴル	モンゴル民族住民	牧場を守るために殺された遊牧民の死を契機に過度な鉱山開発による草原の砂漠化に抗議	デモ、警察と衝突
6月	広州増城	四川籍出稼ぎ労働者	四川籍の露天商夫妻に地元保安係員が暴行	デモ、警察と衝突
6月	広東潮州	四川籍出稼ぎ労働者	地元出身の経営者が未払い賃金の支給を求める四川籍の出稼ぎ労働者を傷害	デモ、警察と衝突
6月	湖北利川	地元住民	民衆のあいだで評判のいい地元幹部の拘置所での不審死	デモ、警察と衝突
8月	貴州黔西	地元住民	地元保安関係者の暴力的行為	デモ、警察と衝突
8月	長沙北山	地元住民	危険物ゴミ・医療用ゴミ処理場建設	デモ、警察と衝突
8月	大連	地元住民	化学工場の撤退	デモ行進
9~12月	広東烏坎	村民	選挙の不正、地元幹部による土地利権の横領、民選村民代表の急死	デモ行進、暴力抗議、自主選挙の実施、地元幹部や警察を村から追い出したことにより事実上初めての村民自治
10月	浙江績里	子ども服生産の従業員など	税金の引き上げ	デモ行進、暴力抗議

*新聞、インターネット情報を基に筆者作成

FLINT HILL

体制内改革が民衆による革命か 二者択一を迫られる中国指導部

2012年が近づくにつれ、中国の近未来を見るワシントンが目が厳しくなってきた。国防総省は「13年には中国が政治的にも経済的にも大きな危機に陥る」と予想したという。北京でも、筆者が12月初めに訪問した際、政治改革を断行しなかった場合、現体制は遅くとも5年以内に崩壊するとの予言を数度耳にした。

中国の組織力と財政力を勘案すれば、現体制があと1、2年で崩壊するとは想定しにくい。しかし、腐敗や社会的不公平に対する大衆の不満が急増し、抗議活動が日常茶飯事に起きている実態からして、指導部は自らの手で現体制を改革するか、大衆の不満が革命に転化するまで現状の1党支配体制を維持していくかの選択を迫られているのは確かであろう。

烏坎という広東省の漁村で起きてきていることは、中国指導部の直面しているこうしたジレンマを如実に表している。

11年9月21日を初めに、選挙の不正や地元幹部による土地利権の横領を訴えて、烏坎の村民は陳情やデモ行進など一連の抗議活動を展開した。これに対し、政府側は訴えられた地元幹部の免職処分な

日本総合研究所
理事
呉 軍華
Wu Junhua

ど村民側の要求を部分的に認めたものの、村民の自主選挙で結成した「村民臨時代表理事会」を不法組織と断定し、代表らを拘束、うち1人が拘置所で急死した。政府と村民の対立がエスカレートするなかで、村が武装警察に取り囲まれ、断水・停電を強いられた。

12月20日現在、抗議活動の組織者を厳罰に処すると宣告した政府に対し、村民は死亡した代表の遺体を取り戻すために、警察の封鎖を突破すると発表した。双方とも譲らない状況が続くなかで、事件の行方にもますます目が離せないが、今後の中国を見通すに当たって、この事件からどのような示唆が得られるかを考えてみたい。

最大のポイントは腐敗が中央から村までの各レベルの政府に浸透している状況の下で、官民対立を解消するためには指導部が現体制の抜本的改革に踏み切るしかないということだ。さもないならば、大衆の抗議が革命につながる日がいつかやって来るかもしれない。12年の秋にポスト胡錦濤体制が発足するが、大衆の不満にどのように対処するのか、早速その手腕が試されることになる。